



発行所
福井県大野郡
和泉村

(昭和43年11月1日現在)

村の人口	
出生	2人
死亡	0人
転入	11人
転出	65人
総人口	2,907人
男	1,538人
女	1,369人
世帯数	839世帯

村の面積
332.26平方km

今月の目標

- あわただしい年の暮となりました。各自が防犯、防火に注意しましょう。
- 油断は大敵、外出や夜間の戸締りは厳重にしましょう。
- 無理なお歳暮はやめましょう。

吾等の念願

村の問題について
公共的精神をもち
公正であり積極的であること

越美北線延長工事

悪条件を克服

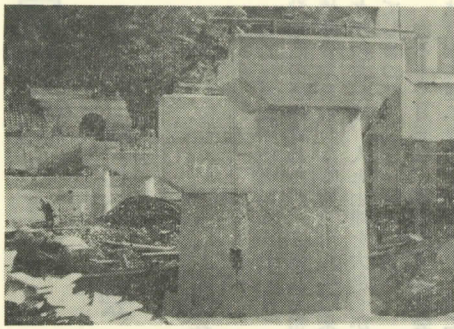
いよいよ核心に突入

第二工区の精力的進捗と、関係用地の買収、さらには第三工区における底設導坑掘削を始め九頭竜川第三橋梁（下部工）など越美北線延長工事は着々進行されつつある。

早期完成を目し

体制をさらに強化

日本鉄道建設公団では、かねてより施工中の越美北線延長工事にもない



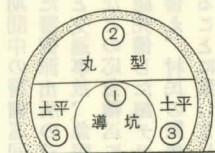
(写真は 第三工区における橋梁工事)

昨秋第三工区に着工、以来地質的な悪条件に遭遇し、破砕帯突破に難渋しながら歩を進め、一方全国関係地区の住民に大きな衝動を与えた国鉄諮問委員会の「赤字ローカル路線廃止案」に対処し、関係地区民の協力と認識を新たに関係各方面への陳情と啓蒙を更に深め、早期完成を目ざしている。

導坑五七〇m 橋脚四基を完成 荒島トンネルも二千mを掘削

既に本紙十月号に一部掲載の如く、第三工区（下山付近路盤その他の工事）における工事の状況は、第二工区（荒島付近路盤その他の工事）の荒島ト

トンネル掘削断面



ンネル出口より板倉間における工事の中で、九頭竜川第三橋梁（一五、五メートル）とトンネル一、一〇〇メートル（総延長一、八八〇メートル）の工事がおこなわれ橋梁においては橋台と五基の橋脚等、下部工事が行なわれ既にこのうち四基は完成している。

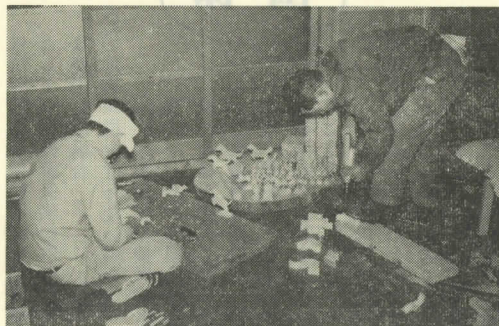
一方トンネル工事においては、掘削三〇〇メートル進行地点において、トンネル工地上、もつとも恐れられ、癌ともいうべき破砕地帯に遭遇し、延々二〇〇メートルにわたつて工事の進捗を阻害した。止むなく掘削工事を一時中断して、その間地質調査のためボーリングや排水などにより工事は停滞したが新たに底設導坑五七〇メートル丸型四二〇メートル（内コンクリート巻四二〇メートル）の掘削を完了し順次土平掘削からコンクリート巻立工事に着手されている。

穴馬の象徴「白馬」の木彫り

郷土みやげ品として登場

九頭竜ダム completion によって、新たな観光地として脚光を浴び、県内外観光客の訪れ極めて多い今日この頃、観光地として飛躍を望む本村にとつて、よろこばしいことである。これら観光客に、郷土色豊かな村内産みやげ品の開発を、いろいろ考案議論されたすえ生れたのが、穴馬の伝説にちなむ木彫りの「白馬」谷口、田中両氏が一ヶ月余の研修の後試作し、売り出したところ現段階ではなかなか好評のようである。

写真は「郷土色豊かな土産品をと「白馬」の木彫りにいそしむ谷口、田中の両氏」



最近では、何処へ行つても郷土玩具や郷土民芸、郷土芸能というように何かにつけて郷土の名が冠せられ、それが一種の売物になつていく傾向にある。しかし、それらのなかには、その土地の歴史や土地柄の片りんすら感じられないものがどれほど多いことか。観光地に欠くことのできない郷土みやげ品、素材で地方色豊かな作品は、

この地点まで掘削が進んでいる。これ等各工区の工事進捗に合せて更に工区の増設を図り、中部経済圏の動脈としての生命と価値を位置づけ早期全線開通を目指して強力に関係方面への働きかけと、沿線住民の協力を切望する段階にいたつていのである。

▼インフルエンザ、ジフテリア、百日咳の予防接種は 十二月中

役場の窓

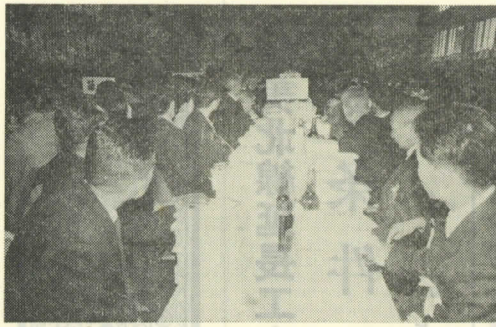
なつかしの再会『顔と村』

水没移住者 ふるさとに集う

好むと好まざるとにかかわらず、水没地区の移住者たちが、余儀なく祖先墳墓の地を去った昭和三十九年以来五ヶ年の月日は、人と土地を大きくかえりしめた。

去る十一月三日、電源開発株式会社は全国各地に散った人たちを一堂に招待し、再会の喜びと、ふるさとの懐古にその機会をつくった。

変り果てた自分の村、自分の在所をいつまでもいつまでも感慨深く眺め、合掌し心なしか目はうるんでいた。やがて約四〇〇名のなつかしい顔は、朝日中学校に設けられた昼食会場に集り五年ぶりの思い出ばなしに時のたつ



も忘れ、夕やみせまる頃別れを惜しみ再会を約しながら、それぞれ第二の故郷へと帰っていった。(写真は、昼食会における懐かしい顔)

国民年金の保険料額引上げ

昭和四十四年一月から

昭和四十一年度の国民年金法改正により年金の支給額が大巾に引上げられたことよって昭和四十四年一月から国民年金保険料が一ヶ月五十円の割で引上げられ、別表のとおり改正されます。

(別表)

金額	昭和44年1月から
年金 20才~34才	250円
35才~60才	300円

このことは国民の生活水準その他の諸事情に著しい変動が生じた場合に、変動後の諸事情に應ずるためこの様な措置がとられ、現在拠出年金は夫婦で月一万年金ですが、昭和四十四年には、夫婦で月二万円年金にすることが検討されております。

国民年金はあなたの生活を守る大切な制度であり、保険料は必ず納めて老後を楽しく暮らしましょう。

固定資産税 第三期分は 十二月が納期です

歳末たすけあい運動実施

十二月一日から

歳末たすけあい運動は、地域住民の自発的な運動として始まり、毎年各地で活発な活動が展開されてきましたが今年も全国一斉に実施されることになりました。

この運動によつて寄せられた善意の金品は、その地域の低所得階層の福祉対策をすすめるため、生活困窮者家庭社会福祉施設の収容者または長期療養者に明るい希望と勇気を与えるよう、施設や各機関を通じて送られます。皆さんのあたたかい御協力をお願いします。

救急自動車購入

総排気量二、〇〇〇CCの完全装備車

電源開発工事期間中の警備巡回用として活動してきた警備派出所のジープを、村内の巡視と交通事故、急病患者その他災害事故などの応急輸送に、寝台、無線機付の総完備した超デラックス救急車に入れ替え、村民の緊急のサービスにつとめることに致しました。

心臓手術に善意の献血

山田洋子さん御兄弟より礼状
県赤十字血液センターから電源開発株式会社九頭龍川建設所に勤務の山田洋子さんが、京都大学病院で十一月六日心臓手術を行うため新鮮なO型血液が必要との要請に接し、各職場を回

【問】国民健康保険税の賦課期日後に被保険者の資格を取得し、または喪失した場合には月割課税が行なわれますか。

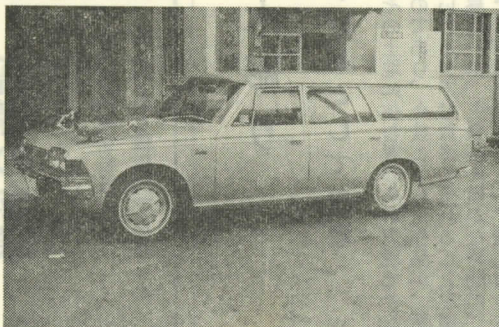
【答】国民健康保険の被保険者の資格を賦課期日後(四月一日)に取得(社会保険等の脱退出生、転入)しまたは喪失(社会保険等)に加入、死亡転出)した場合には被保険者であつた月数に応じてその納税義務者(世帯主)の税額を減額し、または増額する月割課税制度がありますが、しかし月割課税を行わない場合もあります。

国保

1、月割課税をする場合
賦課期日後に納税義務者の世帯に属する世帯員が就職、退職等により社会保険の被保険者等を被保険者として国民健康保険を取得した場合は喪失した場合

2、月割課税を行わない場合
① 社会保険の被保険者の被扶養者として国民健康保険が資格を喪失した場合
② 世帯員の出生、死亡または一部転入、転出による被保険者の資格を取得し、または喪失した場合
このように国民健康保険の運用上の必要性から以上のような制度がとり入れられておりますがなお具体的なことについて疑問があるときは係まで問い合せ下さい

(写真はその活躍が期待される救急車)



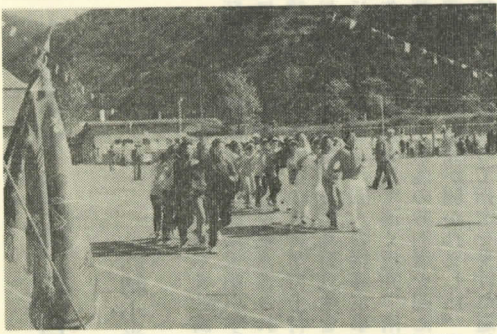
真紅の優勝旗は「黄チーム」へ!!

晴天に恵まれ 第12回和泉村民体育大会開かる

恒例の和泉村民体育大会は、第12回を迎え、雲一つない日本晴に恵まれて十一月三日(文化の日)朝日中学校グラウンドにてにぎやかに開かれました。

今年も、第23回福井国体が大成功を納めたこと、メキシコオリンピックの直後とあつて、本村でもスポーツの年にならわしい大会を開こうと関係者の意図で、従来のお祭的な大会から、記録にも重点をおいたため競走意欲は全般的に強かった。

特に今年も、中龍、上、下大納も加わり、青チーム(上、下大納)など、「赤止れ、黄徐行、青進め」のチヨツピリひにくつてはいるものの「交通安全」をも兼ねた? 横断幕に「タイコ」入りの応援団をくりだすなど、大会



(写真は なごやかな村民体育大会の様)

ムードは近年にない盛況でありました
成績は次のとおり

- 総合優勝 黄チーム(朝日四、五班)
- 二位 青チーム(上、下大納)
- 三位 赤チーム(中龍)
- 四位 緑チーム(朝日一、二、三班)
- 五位 白チーム(下山、板倉、角野)
- 六位 橙チーム(石徹白川水系)
- 個人成績(一位のみ) (タイム)
- 一五〇〇M(一般男)橋元末雄(5分01)
- 四〇〇M() 同 (62秒0)

長瀬きぬいさんに感謝状

山本茂子さんに永年勤続表彰

第12回村民体育大会を機会に、次の方々の表彰が行なわれました。

▽感謝状 長瀬きぬい殿

長瀬さんは、下山小学校時代、読みたい本がなく非常に淋しく過したが、今の子供には当時の思いをさせたくな... (中略) ... 永年の功勞を多とし村体育協会長から表彰されました。

▽永年勤続表彰

山本 茂子殿

宮原 公夫殿

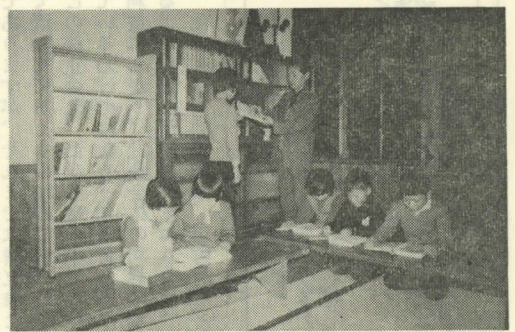
番屋 友吉殿

十五年以上本村役場に勤務し、その功績に対し村長から表彰されました。

来年の米作りは

美味しい米を

近年の米作りは、品種改良と農家の技術の進歩によって、収穫量が増大し余剰米が増加していろいろ問題になっていますが、消費地においては「食味」の問題が顕在化し銘柄格差、産地格差等を実施すべきだとする世論の動向



(写真は、菅野先生(下山小)指導のもとに長瀬文庫を楽しむ児童たち)

には注目すべきものがあります。

今までは量産を主目的としてきましたが、今後は、良質多収を目標とする時代となりました。食味、品質の良し悪しは品種に左右されるので、明年度の米作りは「品種の選定と優良種子の更新」を行ない、産米の商品性を高めるよう配慮したいものです。

参考までに消費地における全国の主な好評品種を紹介すると次のとおりです。

ホウネンワセ、農林二十九号、四十四号、二十一号、二十二号、十八号、コシヒカリ、ハツニシキ、若葉、ササニシキ、黄金錦、越栄等が挙げられています。これらの中から品種選定を行うにしても、その土地に適應するかどうかが問題もありますが、そうしたことについては、県等の指導を受けて次回でお知らせすることにします。



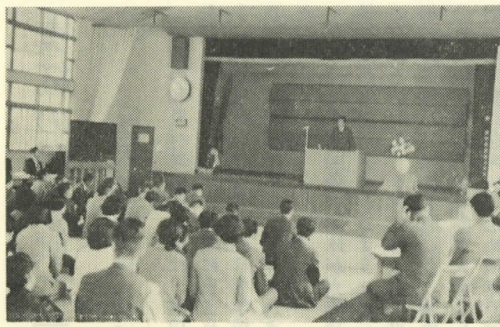
こだま

いよいよ火の恋しい時節となった。和泉村の冬は他より一歩先にやってくる。すでにわが家では十月の半ばからコタツを使っているが、本格的に火が多用するのは今頃からである。したがって火災事故の発生件数も冬期間により多く見られる。特に年末はあわただしく、つい家をおける機会が多いのでお互いに火気には充分気をつけたいものである。さて今月は、いざなぎ景気によつて史上最高のボーナスが予想され、サラリーマンのふところがグーンとあたたまる一方、消費ブームにのつて多額の支出も考えられ、ともかく一年中で一番お金の動く月である。したがってあき果れらしいのも特徴である。外出のときには必ずカギをかけて万全を期したいものである。▼ところで、まもなくわれわれ「いづみっ子」には最大の敵である「雪」のシーズンが到来する。そして向う二、三カ月間は全くの孤立村と化してしまふのである。もちろんブルトラーザの普及によつてその期間は大幅に短縮されてはきたが、孤立村からの脱却は無に等しい。▼ここ二、三年電源開発工事の恩恵(?)で主要道路の常時完全除雪が行なわれ、この間村民の利益は非常に大きかった。が今年も村民待望の電源開発工事も完成したので、主要道路の常時完全除雪は期待できないのではないかと測られる。▼主要道路の除雪は、電気工事に直接関係はないが、その工事のしめたウエイトはあまりにも大きく、これが消えた現在道路における除雪順位がさがらであらうことはいなめない。▼村民の都市集中化が激増する昨今、雪害対策こそが都会と山村における格差是正の重要なポイントと考へる。時折折れ越美北線の廃線案など暗いニュースのただよう中で当面冬期間における交通機関の杜絶防止に全力をそそぐべく、各関係機関におねがいしたい。

第三日曜日は「家庭の日」

文部省指定 道徳教育研究発表会を終えて

大納小学校長 前川 義 正



(写真は 岡島県教育長の挨拶)

十月二十五日は快晴にめぐまれ満山紅葉の大自然にいだかれた大納小学校において、文部省から委嘱派遣された講師として滋賀大学の教育学博士村田昇先生、福井県教育長岡島繁先生をはじめ指導課長さん、五人の指導主事の先生、一般会員として遠く坂井、南条等各地から六十余名の参加者を迎えて道徳教育の発表会が開かれました。当校が二ヶ年に亘つて指定を受けた道徳教育の発表を、新卒若年教師が県教育委員会のご指導と、地元PTAのご協力をいただき、当日全力を注いで公開授業を実施しました。子どもたちも実に元気溢らつとしてよく発表し、ご覧の来賓の方々、先生方も「これらはもはや僻地とは考えられぬ」と特に子ども

たちの自発活動に賞讃の言葉をいただきました。今回の研究会開催につきましては、村当局のご援助と村教育委員会の指導、地域PTAのしんげんな道徳教育への協力の賜と深く感謝いたします。尚この研究発表会においては指導上なお多くの問題点のご指摘を受けましたので今後の課題として、全職員さらに研究を深め、より充実した道徳教育に仕上げて行きたいと念願しております。ここに各位の今後更なるご支援をお願いいたしまして、お礼の言葉と併せて研究発表会の報告を終らせていただきます。

税金のお話し ②

先月号で和泉村の土地の地目の中に新しく池沼(ダム湛水地域)と呼ぶ地目の出来たことを御照会して置きました。池沼を(いけぬま)と読む方が多いですが、辞典には(ちしよ)とかながついて居りますし地目の中には山林(さんりん)原野(げんや)等と読む地目もあるように、原野と書いて(はらの)とは読んで居りませんから池沼は(ちしよ)と読むことに統一いたしたいと思います。

さて今回は固定資産税の中の償却資産のことについてお話いたします。償却資産と言うのは、さきにお話したように土地、家屋、以外の事業の用に供することの出来る資産のことで大別すれば、構築物、機械及び装置、車輛

▼もう一度確かめよう 火のもとを

運搬具(自動車税の課税客体である自動車及び軽自動車類を除く)工具、器具必具備品等であり、毎年一月一日現在の等の資産を所有するものは一月末日までにその所在、種類、数量、取得時期、取得価額、耐用年数、見積価額、その他の明細を定められた様式によつて役場へ申告せねばならぬことになつて居ります。但し二以上の市町村にわたつて所在する固定資産で、その全体を一つの固定資産として評価しなければ適正な評価ができないもの又は移動性、可動性の償却資産で二以上の市町村にわたつて使用されるもの及び鉄道、軌道、発電、送電、配電の用に供する資産等自治大臣の定める所によつて知事又は自治大臣に申告せねばならぬことになつて居ります。いづれにしてもこの申告を怠つた場合は相当な過料を科せられることになつて居ります。但し総額三十万円に満たない償却資産は免税になつて居りますから申告の必要はありません。課税の方法は取得価額から取得価額に耐用年数に応じた減価率を乗じて得た額を控除した残存価額を課税標準として百分の一、四の税率を乗じて税額を算出することになつて居ります。



引揚者特別交付金

引揚者特別交付金の請求受け付けが、

昨年十月から行なわれておりますが和泉村における十月末までの一年間に受けた請求者は、対象者全体の四四% (県の六六%にしか達しておらず、まだ五六%の人が未請求になつております。県厚生部ではまだ請求の終つていない人は早めに村を通じて同交付金

明るい村 住みよい町 づくりに役立つ簡易保険

郵便局の簡易保険に加入された方が、毎月郵便局にお払込みになる保険料は、一年間に三千二百六十億円をこえる大きな金額になつております。このお金は、やがては皆さんのお手許にありますが、それまでは積立金として積立てておくものなのです。しかしこの積立金は、ただ金庫の中でねむっているわけではなく、加入者の方々の利益にもなり、社会全体の利益にもなるよう有効に活用されております。たとえば、都道府県、市町村などや

の請求をするよう呼びかけています。村のまとめでは、この一年間に同交付金の請求をしてきた人は三十七人で、このうち二十五人について認定が済み百十二万円の交付金が支払われました。同交付金の請求期限は四十五年三月末まででその対象者は外地で終戦日までに一年以上生活をしており終戦後内地に引き揚げた者となつており、交付金は終戦日現在の年令に応じて一人二万円から十七万円(遺族の場合はその七割)が十年間の均等割りで交付されます

日本国有鉄道、住宅金融公庫、国民金融公庫、中小企業金融公庫などに融資されて、学校、公営住宅、病院などをつくるための資金、道路、橋梁、水道などの事業資金、交通事業や農村漁村の設備資金、災害復旧工事資金などとなつて、皆さんの生活と直接結びついております。このように簡易保険事業の資金は明るい村、住みよい町をつくるために役立ち、あわせて日本経済の発展のうえにも大きな役割を果たしているのです。また、このほか加入者の皆さんが不時の出費で多額のお金が必要な時に直接現金を融資する普通貸付や、契約者十五人以上が一同となつて、その団体の被保険者の共同の利益を図るための資金を融資する団体貸付などがあり、加入者の皆さんのお役に立つております。

人権を守つて 明るいよい社会

十二月は「国際人権年記念人権月間」

本年は、世界人権宣言採択二十周年にあたり、国際連合がとくに「国際人権年」に指定した意義深い年です。このため、わが国においてもこの記念すべき年を真に意義あらしめるため、本年十二月を「国際人権年記念人権月間」と定めて、全国民とともに世界人権宣言の意義を再確認し、人権意識の一層の普及高揚をはかる月間です。

ところで、私たちの基本的人権とはいうまでもなく私たちが、日頃人間として生きていくために、一番大切な自由や権利などで、この人権が損われると私たちは、この社会でほんとうに人間らしい幸せな暮らしをすることができなくなつてしまいます。

しかし、この人権は、ただ自分だけがわがままや得手勝手をする権利ではなく、自分のほかに他の人たちも、やはり自分と同じ人権を与えられていることを忘れてはなりません。

それで、私たちが自分の自由や権利を行なう場合には、世の中の道理に従つて、正しい自由や権利でなければならず、また、他人の立場もよく考えた上で、責任をもつた行ないでなければ本当の人権とは申せません。

そこで、私たちは日頃、国民生活の基本となり、また、平和な社会の基礎となる基本的人権を、お互いにみんな大切にすると同時に、他人の人権も尊重して平和で明るい世の中、自由で幸福なめいめいの暮らしをたててゆ

くよう努力いたしましょう。

そして、もし人権に関することがわからないことや、またお困りのことがありましたら、いつでも村内におられる人権擁護委員や、最寄りの法務局などにご相談になれば、いつでも無料で皆さまのご相談に乗つて人権を護つてもらえます。なお、和泉村の人権擁護委員は次の方々です。

朝日 桜川栄太郎 電話下穴馬6番
上大納 谷口市松 電話 中庵 3番
川合 新井千代子 電話下穴馬69番

野鳥を愛護しよう

野鳥は、捕獲したり飼育する場合は知事の免許または許可が必要ですが、愛玩のため知事の許可を受けずに、不法に飼養している場合は違反となりますので注意して下さい。

知事の許可を受けて捕獲し飼養できるもの。

マヒワ、ウツ、ホホジロ、ヒバリ、メジロ、ヤマガラ、ウグイスですが、野鳥が減少している現在、愛玩は鳥なべくカナリヤ、ブンチョウ等の洋鳥を飼養されるようお奨めします。

特に、昨年県鳥に指定された「つぐみ」の渡来期を迎え、各地に密猟事犯が発生していますが、野鳥が農林業の

からだとこころの教育を!!

スポーツ少年団の誕生と育成

スポーツ少年団は足尾満五年で、その数一万四千、団員数三十六万を数え福井県でも三六三団体、一〇、〇九七名、また本村も去る七月一日「和泉村スポーツ少年団（本部長徳本庫吉）六団と一八二名が誕生しました。

スポーツ少年団とは

街や村などの地域で少年が自分たちでグループ（団）をつくり、スポーツを中心とした活動を計画をたてつつけて行なっている団体です。

スポーツ少年団の目的は

すべての少年がスポーツをする喜びを通じ、かぎりなく伸びるからだところを育てることです。

スポーツ少年団は、スポーツに優れた少年たちを育てるだけでなく、スポーツを仲間とともにする楽しさをすべての少年に味わってほしいと願っています。

スポーツの仲間

そこには力いっぱいぶつかりあう友情があり、たくましく生きる活力と、限らない自由が育ちます。

21世紀に生きる少年たちに、スポーツをする喜びのなかで健康なからだところを育て、未来への夢を実現しようとする少年たちへ、あたたかいこころで協力しようではありませんか。

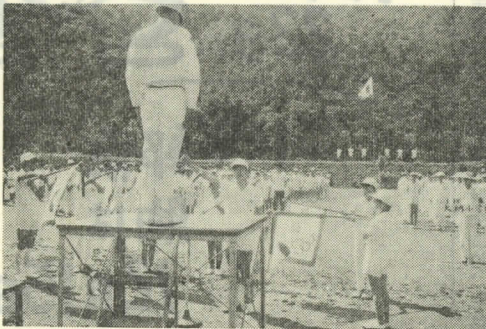
振興や生活環境の美化などに役立つていることを理解していただき、愛護して下さい。

連勝成る

第四回高志地方 町村職員親善体育祭

日頃、同じような職場に働らく町村職員の健康の増進と、相互の親和を図り地方自治行政の進展に貢献せんとする目的を持つ第四回高志地方町村職員親善体育祭は、十一月十六日永平寺町中学校屋内運動場において、七町村参加のもとにバレーボール大会が、なごやかに行なわれた。競技は、七チーム勝抜戦で各チームとも日頃の職場におけ

(写真は団旗を中心に宣誓する 朝日第二団長 山本二郎君)



る見事なチームワークを發揮して、手に汗にぎる大熱戦が展開された。本村チームは、松岡町、美山町を連破し、決勝には二対〇で永平寺町チームを破り第三回にひきつづき二連勝をなしとげた。

消防力の強化

年々増加の傾向にある火災に備え、消防施設の整備充実が強く要請される今日、本村においても、国が示めす消防力の基準に近づけるため努めているが、本年度は小型動力ポンプ一台および小型動力ポンプ積載自動車三台を購入し、一分団、三分団、四分団に配置するとともに、上大納、後野地区など水利の不便な箇所には、初期消火を前提とした防火水槽を建設、これは当所計画による十七ヶ所の建設が昨年終了したので、特に水利の悪い両地区に増設したものであります。

なお、消防施設の一つであるホースドライタワも後野、下山地区に完成し、機械器具の充実と相まって、ホース等の管理保存に大きな効果が期待できる。

最近、隣接市町村間における広域行政の一ツとして、組合方式による常設又は常備消防体制を確立して、消防力の強化を図るようになり、国や県は市町村に対し行政指導をしているが、本村の場合地理的条件の上からも共同処理方式は不可能であり、村単独により消防力の充実を期するは当然ですが、真の消防力は村民一人一人の防火に対する知識の向上と警火心の高揚であることを忘れることはできない。

▼ 火元には、なりたくないね、お母さん

NHK婦人のつどい開かる

料理教室に人気集まる

去る二十四日、NHK高倉営業部長 外数名来村「NHK婦人のつどい」が開かれ、婦人会員四十三名が出席してテレビ懇談会と、料理教室が開かれ

た。NHKの目的は、一人でも多くの人がテレビやラヂオを聴視して、文化生活の向上を望んでおり、また、NHKは国営でも公団でもなく、国民全体が出資（受信料）している日本で唯一の特許組織であること。受信料の行方

簡単なテレビの直し方など説明をききどんな辺地でも、全世界の最も新しい正しいニュースを早く知ることができて、大都市との格差をなくする事でテレビの持つ重大な役割を理解しました。さらに、番組に対する主婦の意見



や、本村の全域が受信できるようなアンテナの設置問題等、卒直な意見や要望がありました。つづいて福井クッキングスクールの先生の指導で料理教室があり、中華風料理「イカのカレイ煮」や、「さといもと鶏手羽の煮込み」など身近にできる料理など数種を学び全員試食して、楽しい一日を終りました。（写真は、料理教室の様相）

行く年をかえり見て

ダムに明け、ダムに暮れた十年の才月と、多くの人々の血涙を一時忘れさせるような見事なダムと人造湖の出現である。

想えば、昭和三十二年に「九頭竜川電源開発計画」が発表され、正に晴天のへきれきともいふべき衝撃を吾々に与え、その対策に寧日の暇なきまま、又、第二の衝撃は伊勢湾台風の襲来となつて、村の浮沈を左右するような途方もない大災害をもたらした。爾来ダムと洪水調節の問題が真険に論議されるようになったと思ひし、当時の福井県知事が関係方面へ再三に亘り提出した「奥越電源開発促進に関する要望」

中、このことを強く打出していたことを記憶する。ともかく、かつては手のつけようもなかつた九頭竜の奔馬も、

年賀郵便物は

12月22日まで



小包郵便物は

12月15日まで

年度早々には全国町村会より、本県で唯一の優良町村としての表彰を受けた新緑の五月には、水没部落の神社、穴馬総社の建立着工がなされた。既に雪融けを利用して石徹白ダム、鶯ダムの湛水が開始され、鶯部落は永遠に湖底に没し去つたのである。教育委員会では、スマートな給食運搬車「しらかば号」を購入、辺地における学校給食の充実を図ることとなつた。盛夏の七月参議院通常選挙が執行された。わが越美線については目下のところ下山、板倉間のトンネル工事が進められておりまだ全線の半分に至っていない。

赤字ローカル線の廃止問題は吾々に一抹の不安を与えたが、地域の特殊性は何が何でも鉄道を必要とし、更に南北線の全線開通を促進する運動が展開中である。十月一日かねて陳情中の「長野ダム」の名称が「九頭竜ダム」と改称され、文字どおり九頭竜の主となつた感がある。錦秋の候、奥越電源開

発工事の竣工式が盛大に挙行され、世紀の大事業も遂に終りを告げた。又、和泉村長の任期満了に伴なう一般選挙及び村議会議員の補欠選挙において、村長に杉本又助氏、村議に田中善武氏の無投票当選がきまつた。村の事業では、林業構造改善事業の第一年度、角野橋の第二年度、伊月村道、下山プールの建設、観光事業の促進など進行しており、広域地質構造調査のためのボーリングなどその結果が期待される。今年がダム完成に伴なう発電開始という奥越電源開発の締めくくりにあつた。村が村造りに積極的に第一歩を踏み出したということと画期的な意義を持つ重要な年であつたと思う。

吾々は、行く年の回顧において深く反省し、来る年の飛躍に備えねばならない。

あとがき

十二月は、中冬から厳冬へと、日ましに冬が深まり寒さもいよいよきびしくなる月であり、一年を終つて次の年を迎へようとする生活の区分をする大切な月でもある。

本年は、福井県の飛躍的發展を願つて着工された奥越電源開発工事の完成を始め、国道一五七号線の改修と順次舗装による交通網の整備と共に、農業、地下資源、観光の名開発の具体化など、明治百年にふさわしい進歩的一ケ年であつた。昭和四十四年は、これ等をさらに充実させ「くい」のない、和泉村再建の夜明けともいふべき年である。



▼ 年末助け合い運動に協力しよう